

美保関地域は島根半島の東端と日本有数の砂州である弓ヶ浜の一部そして大山火山の山麓平野の一部を含んでいる。中でも半島部には美保神社 関の五本松などの観光名所があり晴れた日に関の五本松から眺める大山は大変見事である。

島根半島先端の地蔵崎の灯台へは有料道路が通じており断崖の上から日本海の荒波に浮かぶ沖ノ御前島の灯台や はらかなたに隠岐の島を望むことができる。

この島根半島先端の足元に分布する地層は半島で最も古い前期中新世の古浦層で半島東端部の大部分を占める。古浦層は淡水-汽水湖に堆積した砂・礫岩を主体とし一部に泥質岩を挟む。その証拠に台島型植物群に属すると思われる木の葉や樹幹・樹株 淡水性の貝 シジミやカキの化石が産出する。また陸上に堆積したのか水底に堆積したのか判然としないような酸性火砕流堆積物も幾つか認められる。なお前述の地蔵崎の灯台は古浦層から切り出した砂岩のブロックで造られている。この地層は黒色頁岩・泥岩を主体とする前一中期中新世の海成層である成相寺層に漸移する。この地層は西隣の境港地域に広く分布するが美保関地域の中では古浦層を取り巻いてわずかに分布するにすぎない。

弓ヶ浜は完新世の砂州であり大山火山の山麓平野には大山から噴出した火砕物が広く分布する。美保関地域内に分布するものは名和火砕流と呼ばれるデイサイト火砕流でその下にはかつて火山麓扇状地をなしていた砂礫層(御来屋砂礫層)が分布する。

本報告はこれらの地質を手際よくまとめている。中でも古浦層に関する記載は詳しく一読に値する。特に古浦層中の堆積岩の堆積構造やそれから読み取れる古流向 火砕流堆積物の産状などに関する記述はいいねいでそれらの図版・写真も豊富に掲載されている。

本地域及び周辺地域の第三系を理解するためには 境港地
1986年2月号

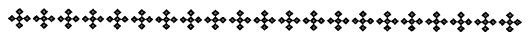
域の地質(昭和60年1月発行)を読むことを是非お勧めする。また大山火山の地質は20年余りに前に出版されている米子 赤崎・大山地域の地質図を並べて見ていただければ概略をつかめることと思う。



5万分の1地質図幅の新刊

美保関
MIHONOSEKI

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告



著者 鹿野和彦・中野 俊

発行 工業技術院 地質調査所

取扱先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401

そのほか全国主要書店

販売価格 1,840円

地質ニュース	第378号	2月号
昭和61年2月1日	定価 ¥ 600	〒実費
編集	発行	
発行人	工業技術院地質調査所	
発行所	林 久	雄
	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒102	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	